



ふれあいセンター 松本所長の講演

2月14日に、本校体育館にて「新入生保護者説明会」を行いました。中学校は、「自立」「自律」の心を育てるというテーマで挨拶しましたので以下紹介します。

新入生保護者説明会にて 「アーリーリーチ」の心を育てましよう

長崎市立
桜馬場中学校

先ず「自分で立つ」と書く方の「自立」とは、「他からの影響や従属から離れ独り立ちすること」。これを中学校に置き換えると「できるだけ、先生や親の力を借りずに、一人であるいは仲間と協力して、勉強も部活動や習い事も家族としての役割も学校行事も、がんばること。先生や親からの支配や助けを受けずに、存在するこ

現在のところ、7つの小学校から127人が入学予定です。これから始まろうとしている義務教育の後半、仕上げの3年間の中学校生活がお子様にとってどのようなものに

なるのか、いろいろと想像し、期待と不安が入り混じっていることだと思います。今日は、子供にどうて、中学校という場はどういう意味をもつのか。私たち大人は、子供とどのように接すればよいのか。親として、学校・教師として大切にしたい「心構え」についてお話ししさせていただきます。

と』になります。簡潔にいふと、自分自身で学習や行動活動などに『自分で自分をやれ』『自分で自分を立てる』ことができる状態にある」と。この状態を自立度が高い状態といえます。

次に「自らを律する」古の「自律」ですが、「自律」とは、「他からの支配や制約を受ける」となく、自分自身で『たきまり』や『行動する』こと。『生や親からの支配や助けを受けずに、自分自身で立てた生活スケジュール』に従つて行動する」といになります。

つまり、強制的な学びから自主的な学びへとない、自分自身で適切なスケジュールを立てる』ことができる通りに行動できる状態にあることを、自律度が高い状態といえます。手を放して、子供に任せると、『こうすることを学校と家庭と連携しながら増やしていく』と思つています。

これから3年間では、『できる限り「手」を放しま』しょう。でも、「団」や「心」は離さないよう』こましょう。『どんな失敗させま

子供の成長・自立・自律には大切なことだと考えておきます。

子供の目の前に石があると、その石を取り除いて歩きやすいようにする親がいます。教員がいます。これでは子供は育ちません。石につまずいて転んでもいいんです。そこから、次は自分で石を取り除いて歩くことを学びます。これが自立・自律です。

自立・自律する段階で、生徒はもう一つ大切なことを身に付けていきます。それは本当の自分を見つけようとするところです。

子供を育てるという、学校教育、家庭教育の最終目標は、子供の自立・自律私たち教員も、保護者の皆さんも目指す方向性は同じです。違うのは場所だけ。家庭と学校という育てる場所が違う。これから始まる中学校生活、ぜひ、子供の明るい未来のために共に手を取り合って進みましょう。

以上が新入生保護者説明会の折に話した内容です。私達大人の大切な役割は、子どもの「じりつ」を促し、支援していくこと。よきモデルや指針を示し、彼らが主体的に課題を見つけ、解決していくような環境をつくりに努めたいと思います。

中学生は試行錯誤しながらも、自分の道を自分で探してつくりていきます。「歩いて見守り、彼らに責任をもたせて、任せること」が必要です。私達が彼らを「大人扱い」すればするほど、中学生は、「大人」に近づきます。

激動の時代を生きる子供たちに「じりつ」は欠かせません。世界中の人々と協調して生活するため、自分の考え方を他人に委ねず、しつかりした根拠に基づいた自らの考え方、信念を持つことが必要です。3年間の学習を通して、経験の幅を広げ、これらの時代を築いていくための基礎力を身に付けます。

ふるさと

育つたといふ、必ずしも家庭ではない。
心を育てられたといふが家庭である。
学んだといふ、必ずしも母校ではない。
良き教師、良き友に巡り会えたといふが母校である。
生まれたといふ、必ずしもふるさとではない。
心をこじらめたといふがふるさとである。



また、思春期の「揺れ動き」は時に大きく、一家庭ではとても受け止められないこともあります。だからこそ、PTAという組織があるんだと思うっています。家庭と学校そして家庭同士が協力して知恵を出し合って対応していく必要があります。

本年度、自分のまちを知り、人を知り、文化や歴史を誇らしげに語ることができる生徒の育成を図るために、「地域学習（すること教育）」を全職員、全生徒で頑張りました。

◆2年『仕事人材を通して』
桜馬場地区の「働くこと」。
働く人の思いに触れ、未來の桜について考える。
◆3年『桜中のファンを増やそう』
桜中生として、地域貢献の方法を模索し、地域とのつながりの価値を見出す。

VERS—わくわくをわる
『』桜馬場地区や長崎の
「わく」「わく」「わく」に関
心を持ち、身近なものへ
の関心を高め、その良さ
を再認識し、誇りをもつ。

を掲げ実施し、子供たちは本当に探究的に学びを深めてくれました。

3年生の取組の中から、
の成果の一端を2つ紹介
します。

①左の3つの班は、地域をPRする動画を作成しました。子供たちが作成した4つの動画は、本校のHPにアップしているので、左のQRコードからぜひひらくセスしてご覧ください。

◆ 風頭班
井手希・佐々木裕誠(3)

◆学校PR班
岩本武大・加藤夢・辻り
か・長谷川広雅・松尾歩
(3-1)

◆シーボルト班・長崎街
道班
田中達也・中村悠里(3-1)
西村慶明(3-4)

1) 岩本悠愛(3-2)・桶
口大也・廣山日和(3-3)
村上彪怒・山口莉奈(3-4)



立春の前日の2月3日には、町内の氏神様「矢の平神社」の節分祭を矢の平町内の自治会を中心に

は暖かくなつたような感じですが、まだまだ冷たい風に身震いする日が続きます。

自治会長さんからおれの手紙

「**節分祭**」ポスターが地域の掲示板に掲示され、地域の自治会長さんからお礼の手紙をいただきましたので掲載します。

◆水田大和・新谷美杏(3-1)
1) 加藤雄大・森内楓(3-2)
2) 白倉結衣・野呂夏希・
松本虹・川原慶太(3-3)
笛田陽彩(3-4)

②左のメンバーは、地域の伝統行事について地元の方に直接話を聞いて調べ、地域の課題を解決する手段について考え実践に移し、ポスター作成等を行なう。

◆ペットボトルキャップ回収にご協力を◆
今回で4回目のペットボトルキャップ回収。瀬崎前生徒会長が、受け継いできたものを、今期の生徒会でも継続。目標個数 一人20個 一クラスあたり800個、全校9600個。ペットボトルキャップ2kgが、ポリオワクチン一人分。誰かのため何かをすることの大切さを感じながら協力を。
期間は、3月1日（水）～9日（木） 保護者の方もご協力をお願いします。

は暖かくなつたような感じですが、まだまだ冷たい風に身震いする日が続きます。

立春の前日、2月3日には、町内の氏神様「矢の平神社」の節分祭を矢の平町内の自治会を中心で開かれます。

当日は、20人～30人の参詣者があり、豆まきと鬼火焚きをして、豆やお

「節分祭」ポスターが地域の掲示板に掲示され、地域の自治会長さんからお礼の手紙をいただきましたので掲載します。

立春を過ぎると気分的に前位から、生徒さんに作成していただいた「節分祭」ポスターを町内の掲示板に1枚ずつ掲示したところ、参詣者から「手書きのポスター、良かつたよ」と声をかけていただいたり、大変好評でした。

立春を過ぎると気分的に前位から、生徒さんに作成していただいた「節分祭」ポスターを町内の掲示板に1枚ずつ掲示したところ、参詣者から「手書きのポスター、良かつたよ」と声をかけていただいたり、大変好評でした。